

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる

デイリー・ジーザス・ニュース #132

12. 奇跡その25：イエスは悪魔に取り憑かれた少年を癒す

マルコ9.14-27（並行テキスト：マタイ 17.14-18。ルカ9.37-43）

14 ^L翌日、彼らが山から下りてきたとき ^Mそして他の弟子たちのところへ来ると、大勢の群衆が彼らを取り囲んでいて、律法学者たちが彼らと議論しているのが見えました。15 人々は皆イエスを見ると、驚きに満たされ、走って来て挨拶しました。

16 「**彼らと何を議論しているのですか？**」彼は尋ねた。

17 一人の男がイエスに近づき、イエスの前にひざまずいて言った。「主よ、私の息子をあわれんでください。彼は発作を起こしてひどく苦しんでいます。」

^M彼は続けました。「先生、私は息子連れて来ました。私の一人っ子^L言葉を奪った悪霊にとりつかれた^M。18 それで彼を捕らえると、地面に投げ飛ばします。彼は口から泡を吹いて、^Lは叫ぶ、^Mは歯ぎしりして硬直する。^Lその霊は彼から離れることはほとんどなく、彼にひどい傷を与えます。

^Mあなたの弟子たちに、その霊を追い出すように頼みましたが、彼らはできませんでした。」

19 「**あなた方不信仰者^{MT}と倒錯^M世代**」イエスは答えた。「**いつまであなたと一緒にいれればいいの？いつまで我慢すればいいの？その子を連れてきなさい。**」

20 そこで彼らは少年を連れて来た。霊はイエスを見ると、たちまち少年をけいれんさせ、地面に倒れて転げ回り、口から泡を吹いた。

21 イエスは少年の父親に尋ねました。「**彼はどれくらいこんな状態なの？**」

「子供の頃から」と彼は答えた。22 「何度も彼を殺そうとして火や水の中に投げ込んできました。でも、もしできることがあれば、どうか私たちを憐れんで助けてください。」

23 「**『できるなら』ですか？**」とイエスは言いました。「**信じる者にとって、すべては可能だ。**」

24 すぐにその少年の父親は叫びました。「私は信じます。私の不信仰を克服するのを助けてください！」

25 イエスは群衆がその場に駆け寄ってくるのを見て、汚れた霊を叱責しました。

「**耳が聞こえず口がきけない霊よ**」彼は言った、「**私はあなたに命じる。彼から出て行き、二度と彼に入るな。**」

26 霊は悲鳴を上げて少年を激しく痙攣させ、出て行った。少年はまるで死体のようだったので、多くの人が「彼は死んだ」と言った。27 しかし、イエスは彼の手を取って立たせると、彼は立ち上がりました。^Lイエスは彼を父親に返しました。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる

そして彼らは皆、神の偉大さに驚きました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤いイタリック体で書かれています**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	カイサリア・フィリピ近郊
タイムライン	7月（30月）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる
タイトル	12. 奇跡その25：イエスは悪魔に取り憑かれた少年を癒す

コメント：

以前、福音書にはガリラヤからの撤退期間である5ヶ月間（4月から8月）に起こった出来事が13件しか記されていないことを指摘しました。そのうち6件は奇跡であり、それぞれが特に重要な意味を持っていました。今日の朗読には、信仰に関する重要な教訓がいくつか含まれており、それがこの聖書を特別なものになっています。これらについては後ほど詳しく説明します。イエスは、この感動的な出会いを通して、信仰の潜在的な力について普遍的な約束をされました。

今日の朗読は、イエスの慈悲深さを改めて強調しています。変容において栄光の極みを体験された後、イエスは山を下り、人々の深い窮乏と苦しみに向き合いました。また別の痛ましい父親が、たった一人の息子をイエスのもとに連れてきて癒しを求めました。この少年は、イエスがこれまで導いた人の中で、最も虐待され、打ちのめされた人だったかもしれません。特に凶暴な悪霊が、彼を絶え間ない苦痛に陥れていたのです。

悪霊は少年を地面に投げ落とし、火の中へ、そして水の中に投げ込んで溺れさせました。こうして、悪魔は犠牲者の精神、骨、皮膚、肺、中枢神経系、歯、そして魂を、絶え間ない発作と肉体的な攻撃で苦しめ、嚙啞状態に陥れました。父親にも少年にも、どうすることもできませんでした。少年は悪魔によって地上の地獄に閉じ込められてしまったのです。

さらに悪いことに、父親が息子をイエスのもとに連れて行った時、救い主は山の上で祈りの修行に出ていたことが分かり、父親はがっかりしました。残りの9人の使徒たちは悪霊を追い出そうとしましたが、できませんでした。絶望的な状況は、さらに耐え難いものとなりました。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる

イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネと共に到着されたとき、弟子たちが少年に仕えることができないことに心を痛め、父と息子の双方に深い同情を覚えました。父親が「もしできるなら」とイエスに助けを求めると、イエスは即座に有名な言葉で応えられました。「**信じ続ける者にはすべてが可能です。**」

父は、同じように心を打つ告白で答えました。「**私は信じます。どうか、私の不信仰を克服するのを助けてください。**」イエスは、悪霊を追い出し、少年を癒し、そして彼を父親の元に返すことで、その願いを叶えました。

この慈悲深い癒しは、真の信仰とは疑いがない状態ではなく、神への信頼と献身であり、疑問を抱えながらも信仰に基づいて行動することで、疑いや恐れを克服するものであることを示しています。イエスの慈悲、愛、善良さ、そして誠実さは、疑いや疑問を抱えながらも信仰を貫く人々にあらゆる可能性を開いてくれます。これは、真摯に、そして探求する心でイエスに近づくとき、誰にでも希望があることを意味します。

応用：

「信じ続ける人にとって、すべては可能だ。」

あなたの人生や期待の中に、あなたの信仰に応えるイエスの力ではなく、疑念に支配されている部分はありませんか？ あなたはそれについてどうしますか？

どのようにイエス様を信頼して不信仰を克服しますか？